

障害児・者歯科保健医療の実態調査アンケート
「障害者歯科人材育成の研修効果に関する実態調査」
報告書

東京都立心身障害者口腔保健センター

1 調査の概要

(1) 調査の目的

東京都立心身障害者口腔保健センターは、障害者が身近な地域で歯科健診や治療が受けられるよう障害者歯科を担う歯科医療従事者の人材育成のため様々な障害者歯科研修会を実施している。その中でも臨床経験3年以上の歯科医師、歯科衛生士を対象とする個別研修会アドバンスコースは、障害者歯科医療の理解とともに、かかりつけ歯科医の支援・医療連携の促進を趣旨とした講義及び臨床実習を伴う実践的な研修であり、障害者歯科を担う人材育成に込めている。

平成23年に歯科口腔保健推進法が施行されたことで、国及び地方公共団体に対し、障害者等が定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることができるようにするための必要な施策を講ずる責務が追加された。そこで、当該研修を修了した歯科医師に対して、障害者歯科診療の実施状況、研修内容がどのように役立ったか等について調査することで、地域の歯科医療機関における障害者の受け入れ状況の把握と、地域における障害者歯科診療を普及するための研修課題を検討することを本調査の目的とする。

(2) 調査対象

平成18年4月1日から令和5年3月31日までに個別研修会アドバンスコースを修了した歯科医師120名を対象とした。

(3) 実施方法

本調査は、8020 運動・口腔保健推進事業「調査研究事業」として東京都が東京都歯科医師会（指定管理者）に委託し、東京都立心身障害者口腔保健センターにおいて企画・実施した。

(4) 調査期間

令和5年10月16日から令和5年10月30日まで。

(5) 調査内容

調査で使用したアンケート用紙を17頁から21頁に別添する。

(6) 調査方法

調査対象が勤務する歯科医療機関に質問調査票を送付し回答（無記名）を依頼し回答を得る。

(7) 倫理的配慮

本調査は、公益社団法人 日本障害者歯科学会倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【承認番号】 23036

【承認日】 令和5年9月29日

2 結果

(1) 回収総数

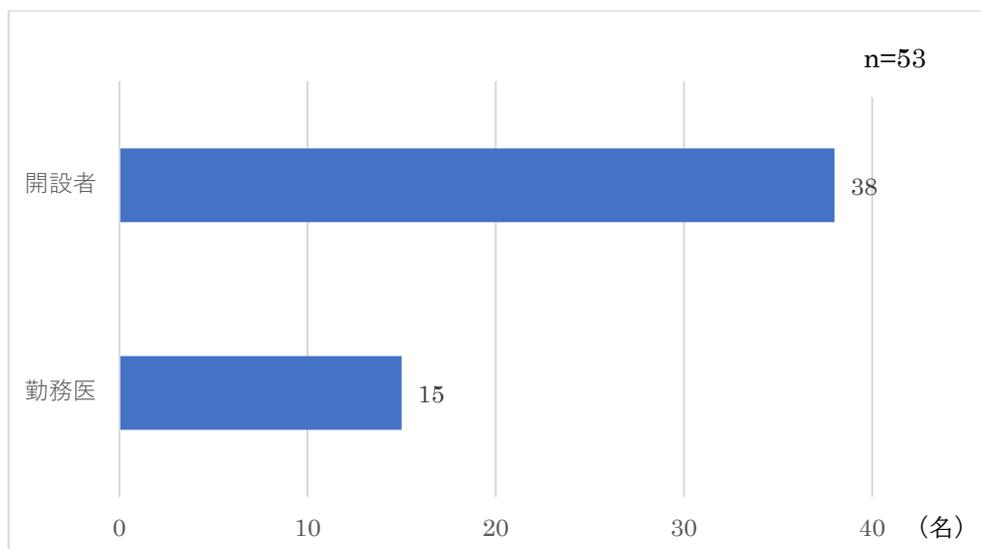
アンケート配布件数 120 件のうち、宛先不明(16 件)を除いた有効回答数は 53 件(有効回答率 51.0%)であった。

(2) 勤務形態と年齢区分

① 勤務形態

回答者の勤務形態は「開設者」38 名、「勤務医」15 名であった(図 1)。

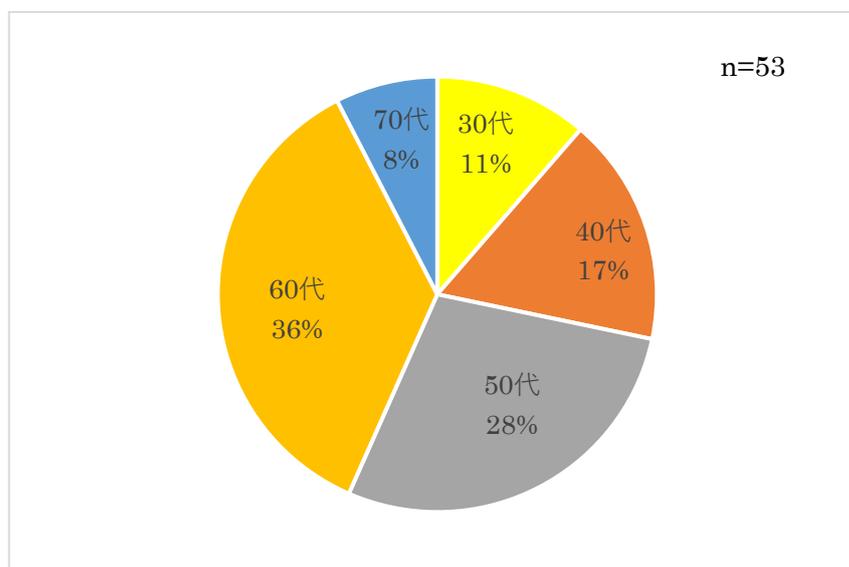
図 1 勤務形態



② 年齢区分

回答者の年齢区分は、「30代」6名(11%)、「40代」9名(17%)、「50代」15名(28%)、「60代」19名(36%)、「70代」4名(8%)であった。年代別の人数としては60代が最も多く、次いで50代が多い結果となった(図 2)。

図 2 年齢区分

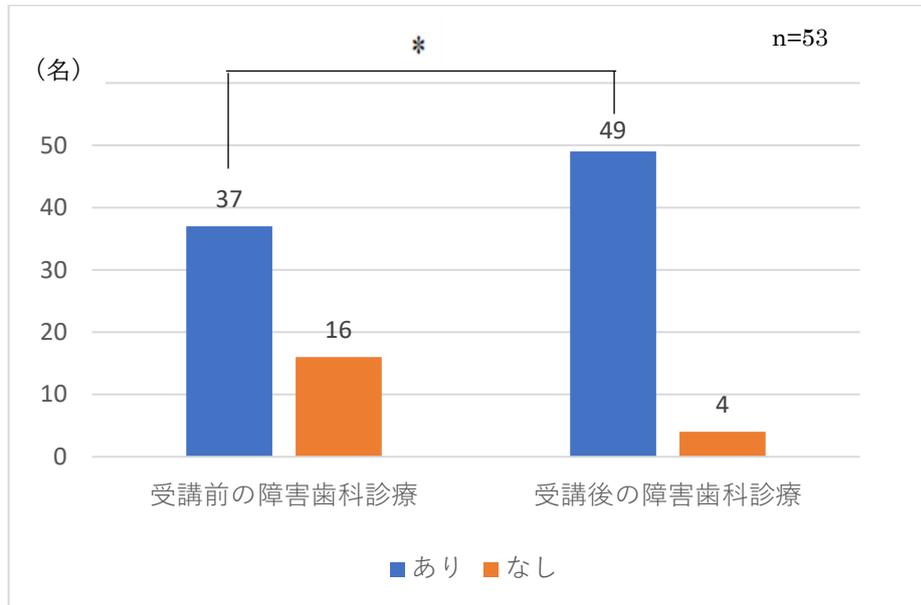


(3) 障害者歯科診療の実施状況

① 個別研修会アドバンスコース受講前、受講後の障害者歯科診療実施状況

受講前に障害者の歯科診療を行っていたかの問いには、「行っていた」37名、「行っていないかった」16名、受講後に障害者の歯科診療を行なった、もしくは行っているかの問いには「行った、もしくは行っている」49名、「行っていない」4名だった(図3)。

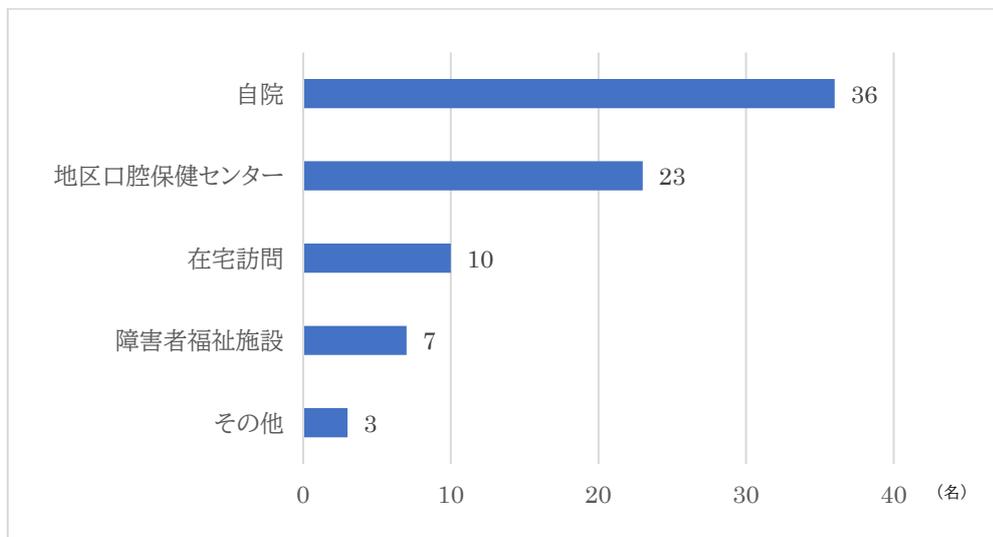
図3 受講前、受講後の障害者歯科診療実施状況



② 障害者歯科診療の実施場所 (複数回答)

障害者歯科診療をどこで行っているか、もしくは行ったかの問いでは「自院」36名、「地区口腔保健センター」23名、「在宅訪問」10名、「障害者福祉施設」7名、「その他」3名だった(図4)。

図4 障害者歯科診療の実施場所(複数回答)

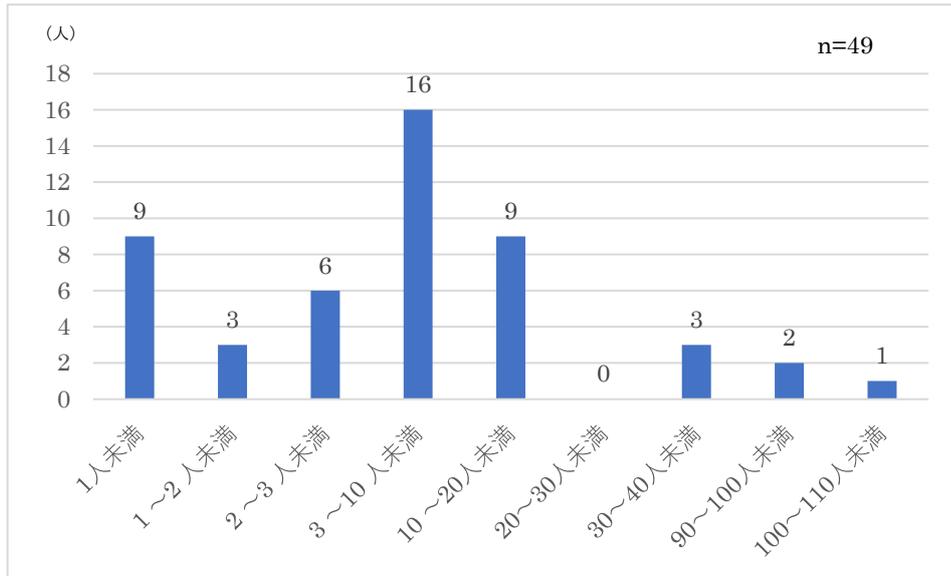


(4)患者状況

①最近1ヶ月の診療人数

障害者歯科診療を実施している歯科診療所の最近1ヶ月の診療人数は、「1人未満」が19%、「1～2人未満」が6%、「2～3人未満」が12%、「3～10人未満」が33%で、70%が10人未満であるが、90人以上の歯科診療所も6%あった(図5)。1ヶ月の平均診療人数は11.7(±24)人であった(図5)。

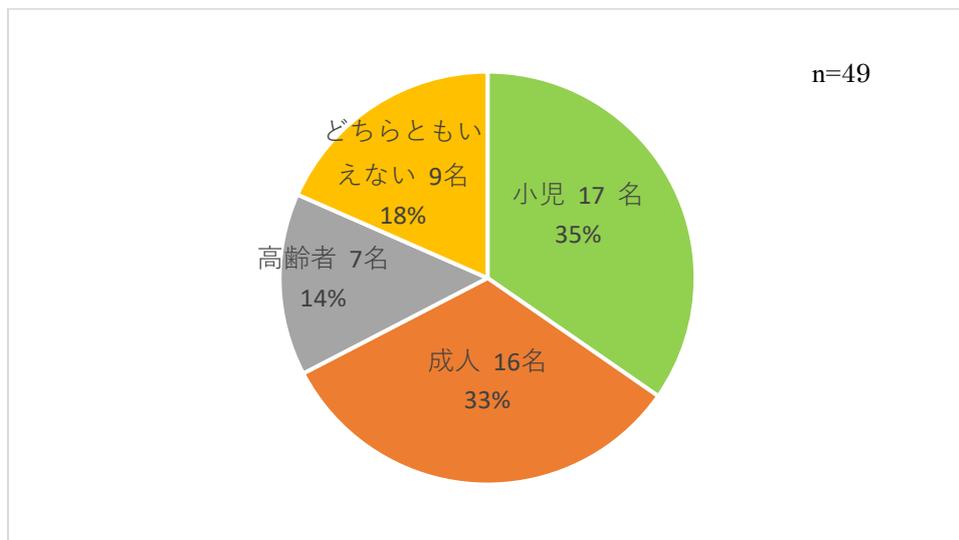
図5 最近1ヶ月の診療人数



②年齢区分

最も多い年齢層は「小児」17名(35%)、「成人」16名(33%)、「高齢者」7名(14%)、「どちらともいえない」9名(18%)であった(図6)。

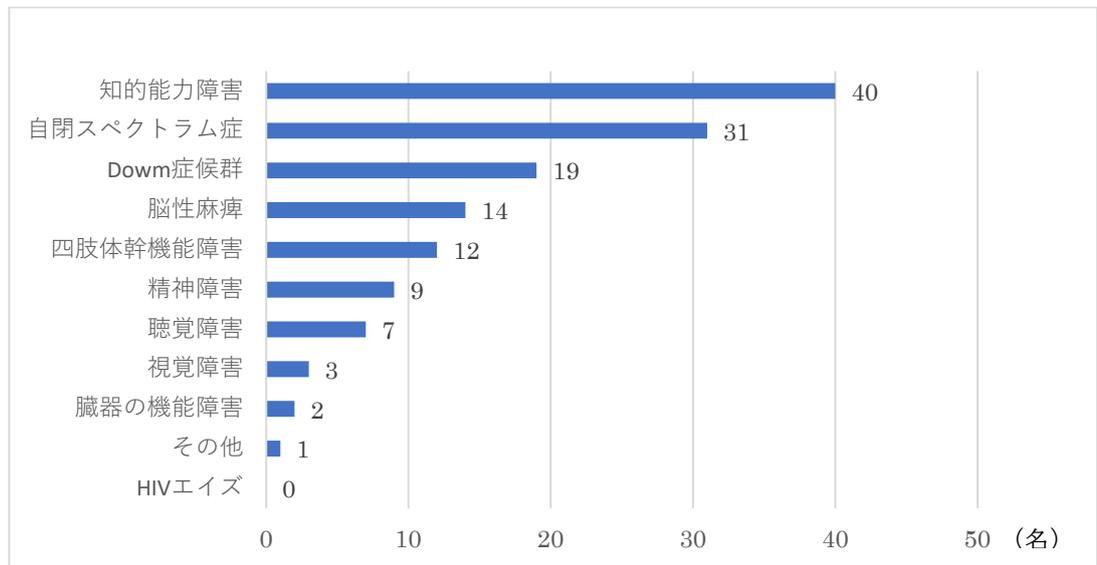
図6 最も多い年齢層



③ 来院患者に多い疾患(上位 3 位まで 複数回答)

障害者歯科診療を実施している歯科診療所の来院患者のうち、知的能力障害の患者が 40 名と最も多く、次いで自閉スペクトラム症 31 名、Down 症候群 19 名、脳性麻痺 14 名と続いた(図 7)。

図 7 来院患者に多い疾患(複数回答)

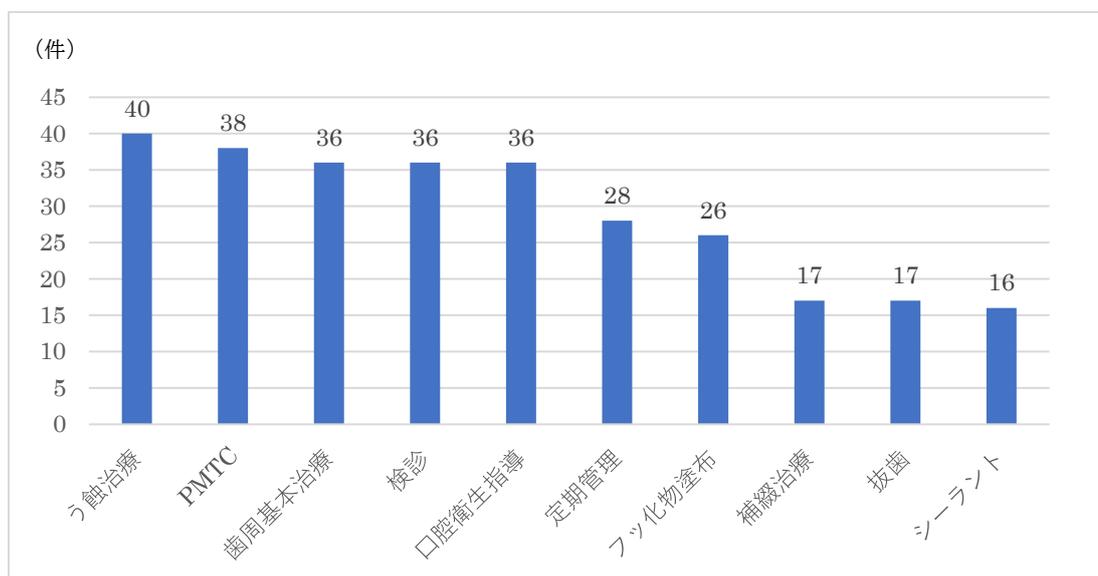


(5) 診療内容

① どのような診療を行っている、もしくは行っていたか(複数回答)

歯科診療の主な内容は、「う蝕治療」が最も多く 40 件、次いで「PMTC」38 件、「歯周基本治療」36 件、「検診」36 件、「口腔衛生指導」36 件、「定期管理」28 件、「フッ化物塗布」26 件、「補綴治療」17 件、「抜歯」17 件、「シーラント」16 件であった(図 8)。

図 8 診療内容(複数回答)



② 診療困難時の対応

患者の歯科治療が必要になった際、治療が困難な場合があると21名(43%)が回答した(図9-1)。治療が困難であった場合の対応としては、「他の歯科医療機関に紹介」が21名(78%)、「できる範囲での治療」が5名(18%)、その他が1名(4%)であった(図9-2)。

図9-1 診療困難な場合の有無

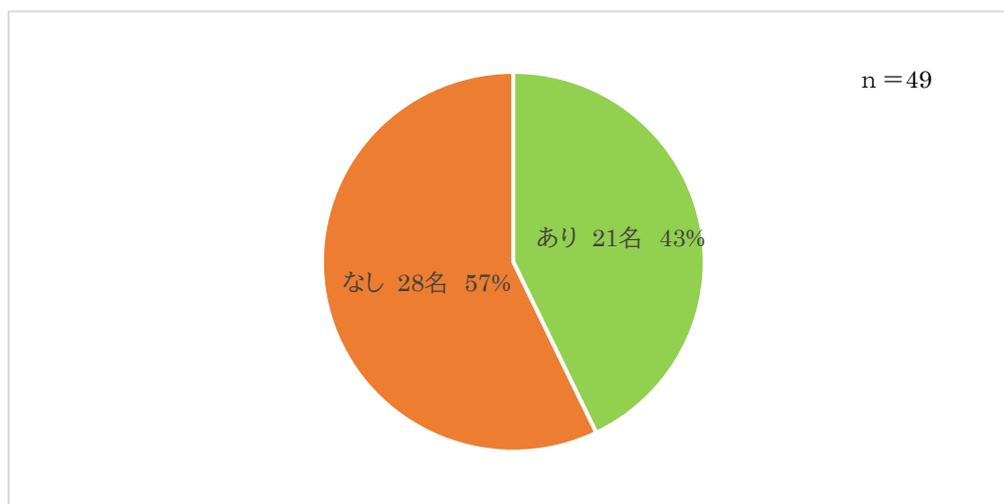
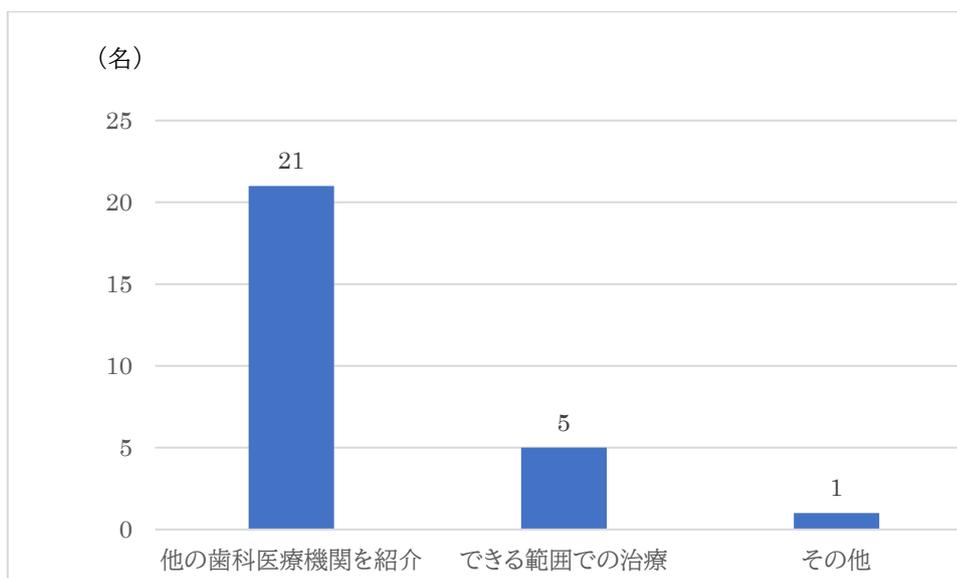


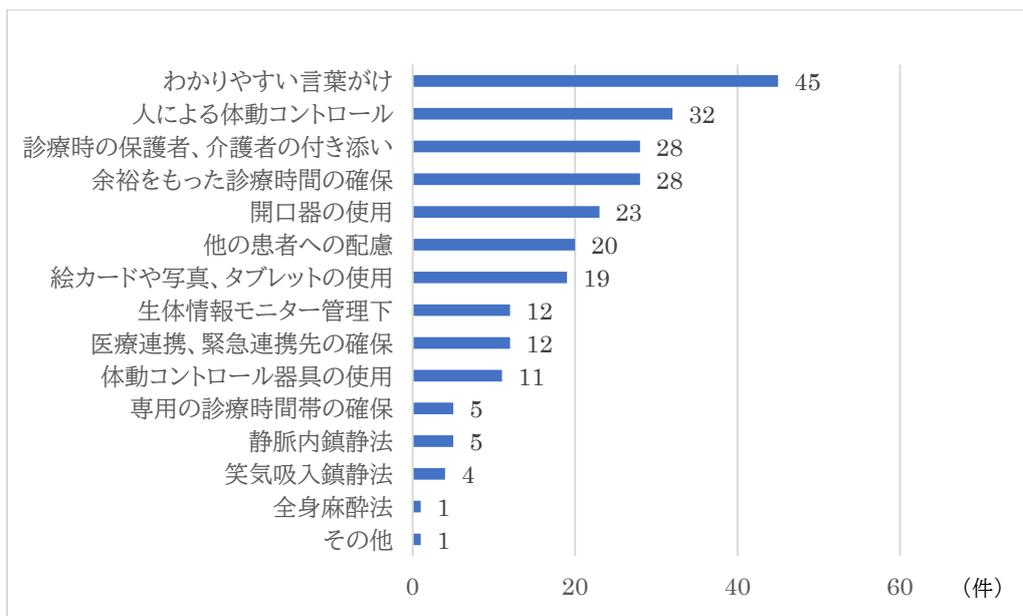
図9-2 診療困難時の対応(複数回答)



③ 障害者歯科診療での配慮、実施していること(複数回答)

障害者歯科診療での配慮や対応は、「わかりやすい言葉がけ」が45名で最も多かった。「人による体動コントロール」32名、「診療時の保護者、介護者の付き添い」や「余裕をもった診療時間の確保」がともに28名であった(図10)。

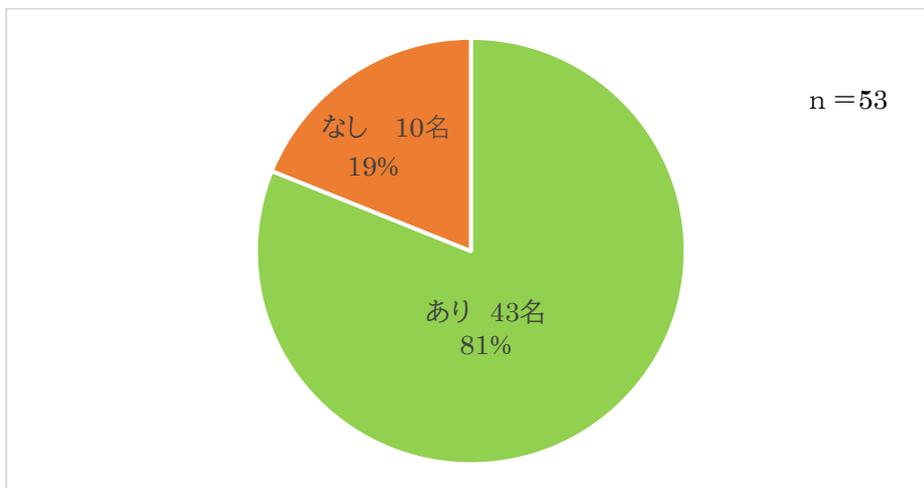
図 10 障害者歯科診療で配慮、実施していること(複数回答)



④ 障害者歯科診療を行う上で課題があるか

障害者歯科診療を行う上で課題があると 43 名(81%)が回答した(図 11-1)。

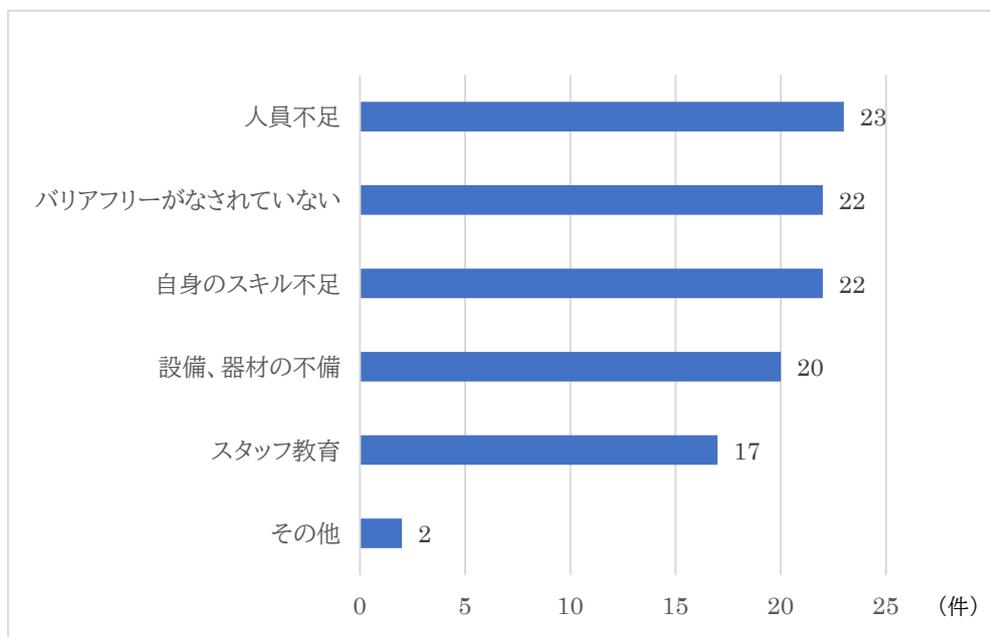
図 11-1 障害者歯科診療を行う上での課題の有無



⑤ 障害者歯科診療を行う上での課題(複数回答)

障害者歯科診療を行う上での課題の内容は、「人員不足」や「バリアフリーがなされていない」、「自身のスキル不足」が上位の理由として挙げられていた(図 11-2)。

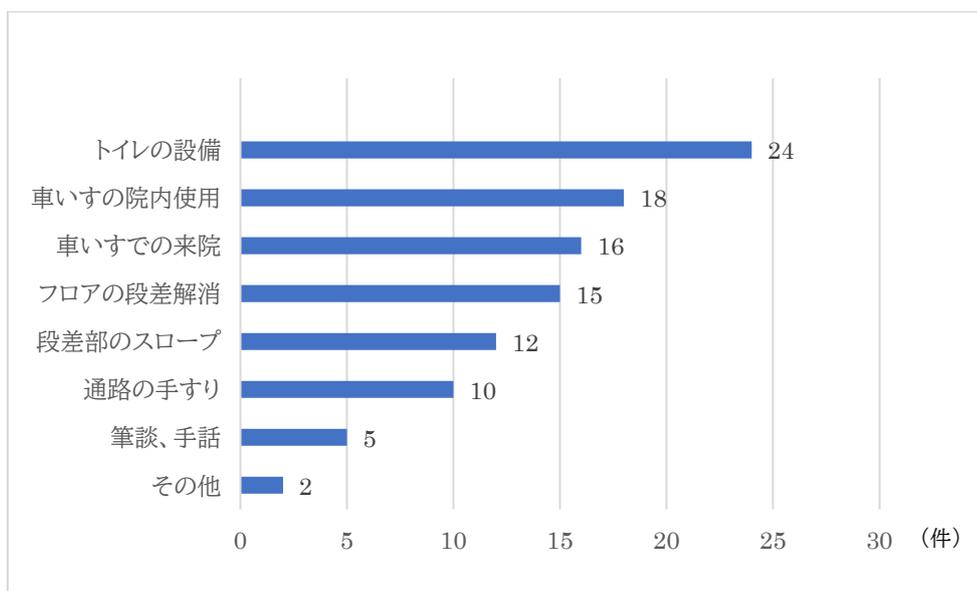
図 11-2 障害者歯科診療を行う上での課題内容(複数回答)



⑥ バリアフリーでの課題内容(複数回答)

バリアフリーでの課題の内容は、「トイレの設備」24 名が最も多く、次いで「車いすの院内の使用」や「車いすの来院」であった(図 11-3)。

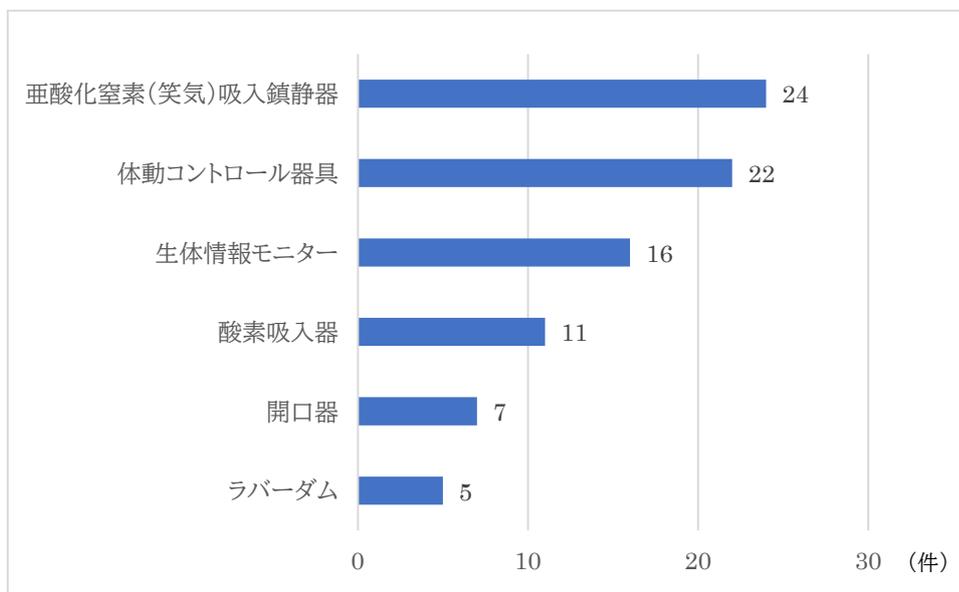
図 11-3 バリアフリーでの課題内容(複数回答)



⑦ 設備、器材の不備(複数回答)

障害者歯科診療を行う際に設備、器材の不備があるかとの問いには、「亜酸化窒素(笑気)吸入鎮静器」24名で最も多く、次いで「体動コントロール器具」22名、「生体情報モニター」16名だった(図 11-4)。

図 11-4 設備、器材の不備内容(複数回答)

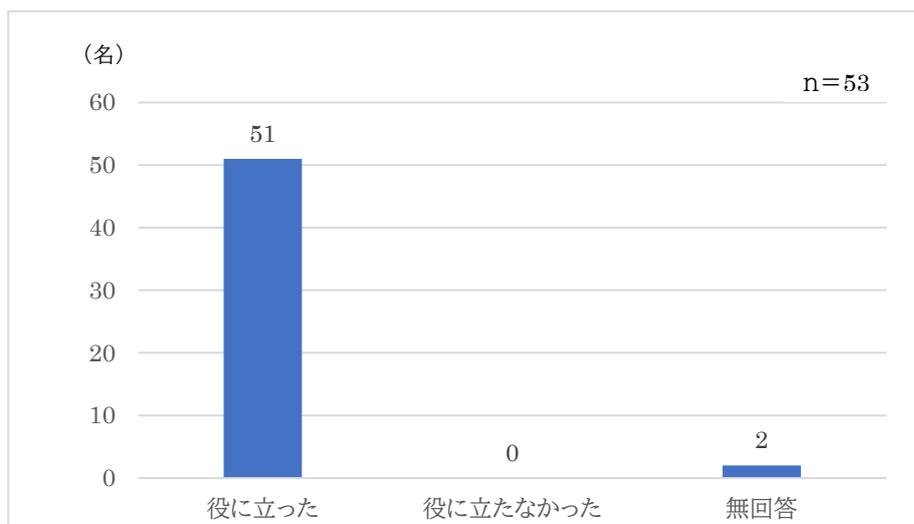


(6) 個別研修アドバンスコースについて

① 個別研修アドバンスコースは障害者歯科診療を行う上で役に立ったか

「役に立った」51名、「役に立たなかった」0名、「無回答」2名だった(図 12-1)。

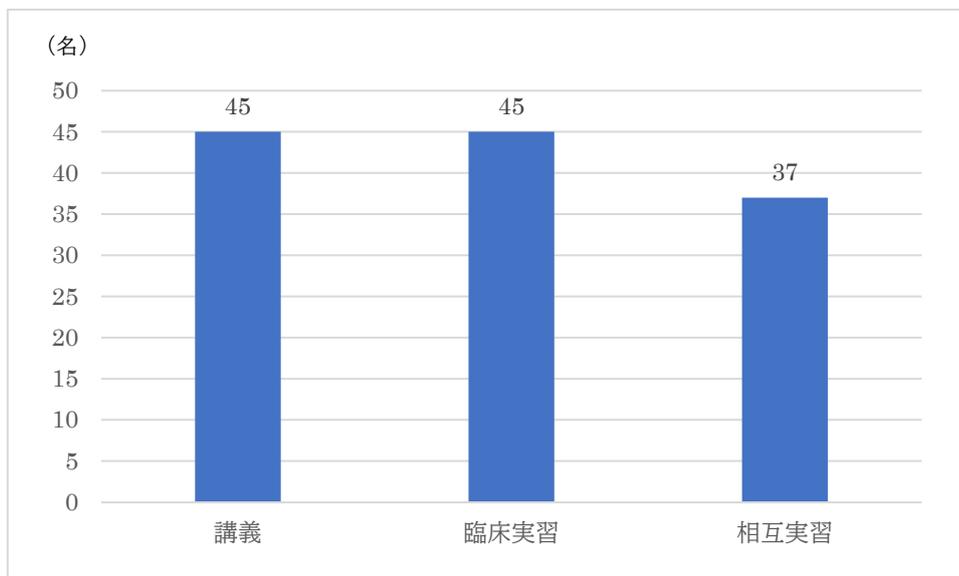
図 12-1 個別研修アドバンスコースは役に立ったか



② 個別研修アドバンスコースでの役に立った内容(複数回答)

どの内容が役に立ったかの問いには、「講義」45名(88.2%)、「相互実習」37名(72.5%)、「臨床実習」45名(88.2%)だった(図 12-2)。

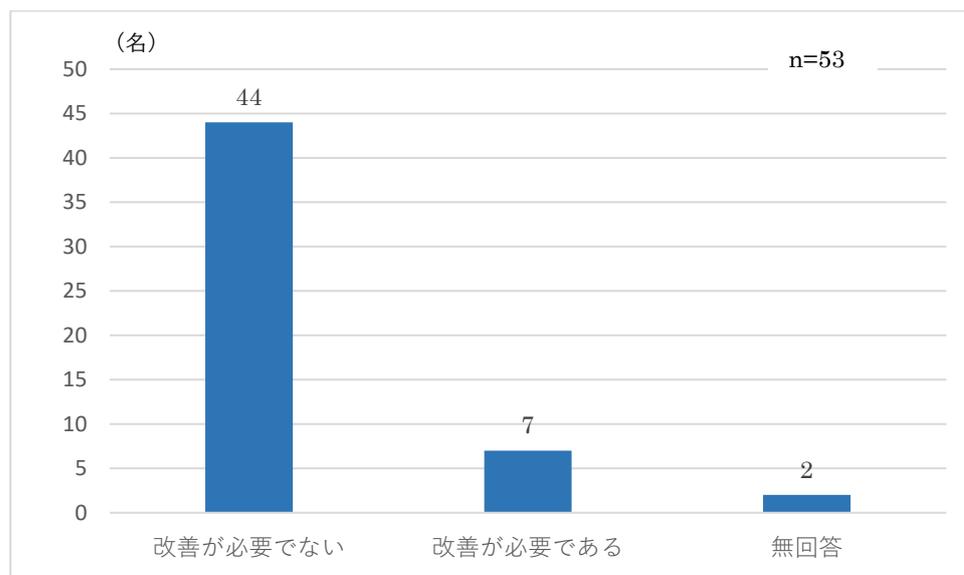
図 12-2 個別研修アドバンスコースでの役に立った内容(複数回答)



③ 個別研修アドバンスコースの改善は必要ですか

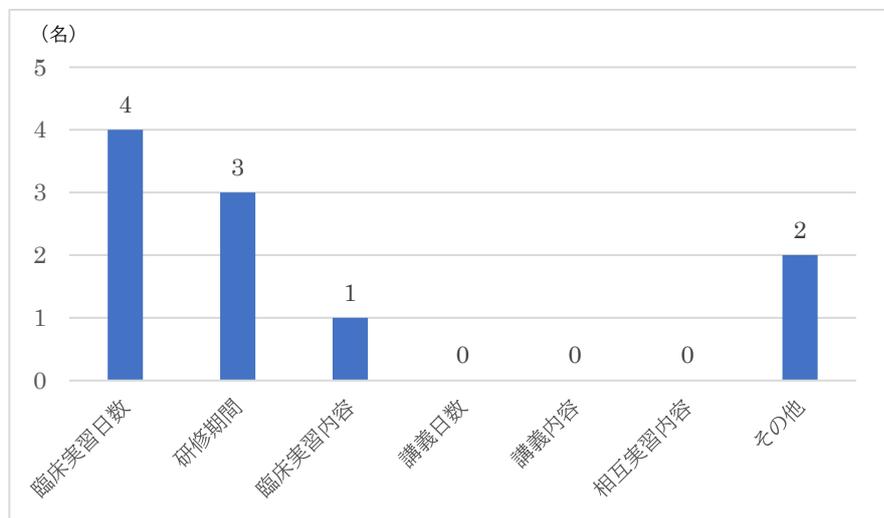
個別研修アドバンスコースの改善が必要かどうかの問いには、「改善が必要ではない」44名、「改善が必要」7名、「無回答」2名だった(図 13-1)。

図 13-1 個別研修アドバンスコースの改善の必要性



- ④ 個別研修アドバンスコースで改善が必要と思われる項目は何ですか(複数回答)
「臨床実習日数」4名、「研修期間」3名、「臨床実習内容」1名、「講義内容」、
「相互実習内容」、「臨床実習内容」ともに0名、「その他」2名だった。

図 13-2 個別研修アドバンスコースの改善が必要と思われる項目(複数回答)

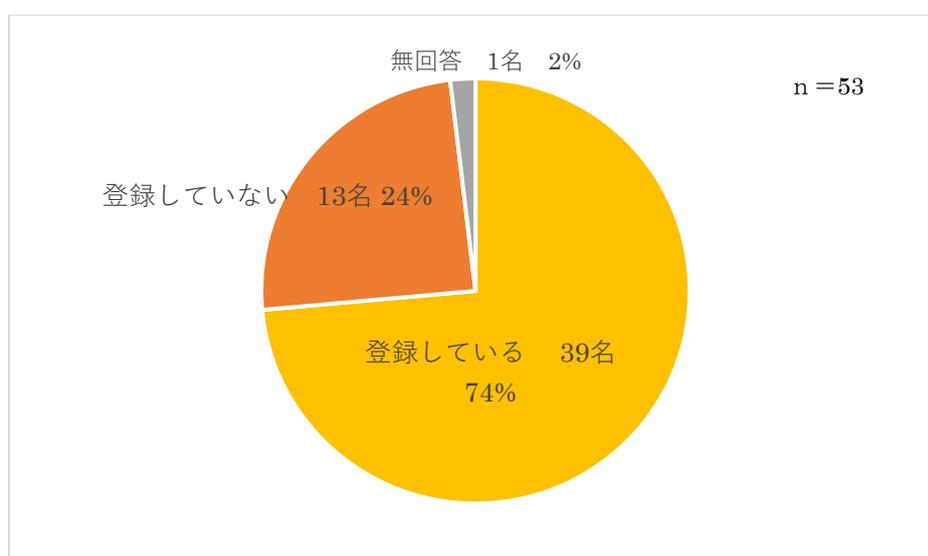


(7) 協力医の登録

- (1) 現在、当センターの協力医に登録されていますか

「協力医に登録している」39名(74%)、「協力医に登録していない」13名(24%)、「無回答」1名(2%)だった(図 14-1)。

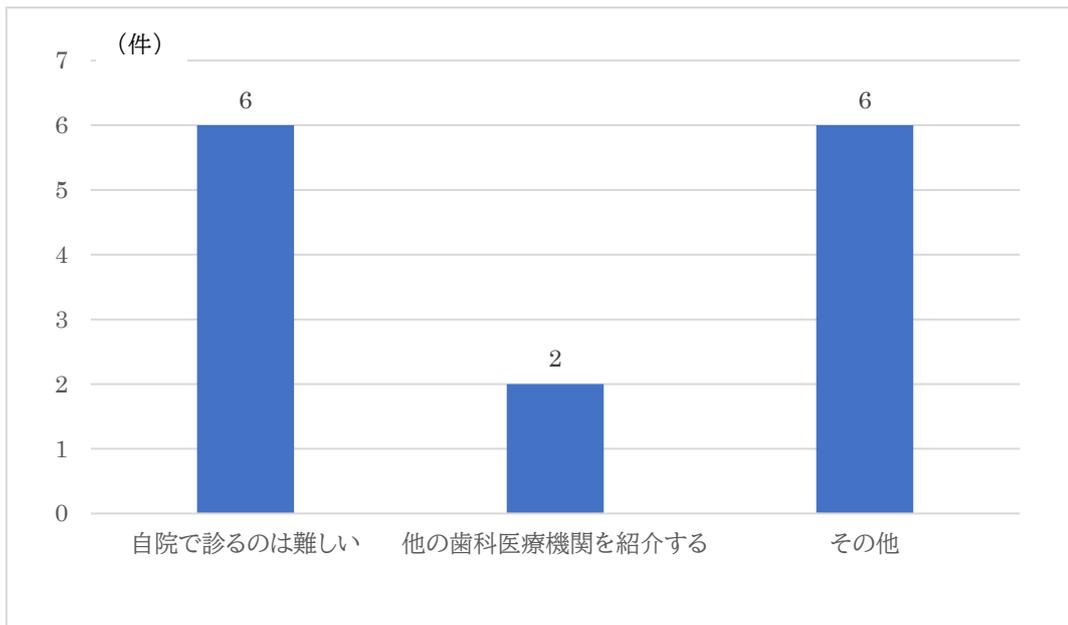
図 14-1 協力医の登録状況



② 協力医に登録していない理由(複数回答)

「自院で診るのは難しい」6名、「他の歯科医療機関を紹介する」2名、「その他」6名だった(図14-2)。「その他」の回答には「協力医の登録を知らなかった」2名、「年齢的に今、来院している患者のみ診療を行う」、「東京都以外で診療行っている」、「勤務医のためスタッフの協力がまだ得られない」、「登録する意思はある」、「車いすからユニットに移乗できない配置になっている」だった。

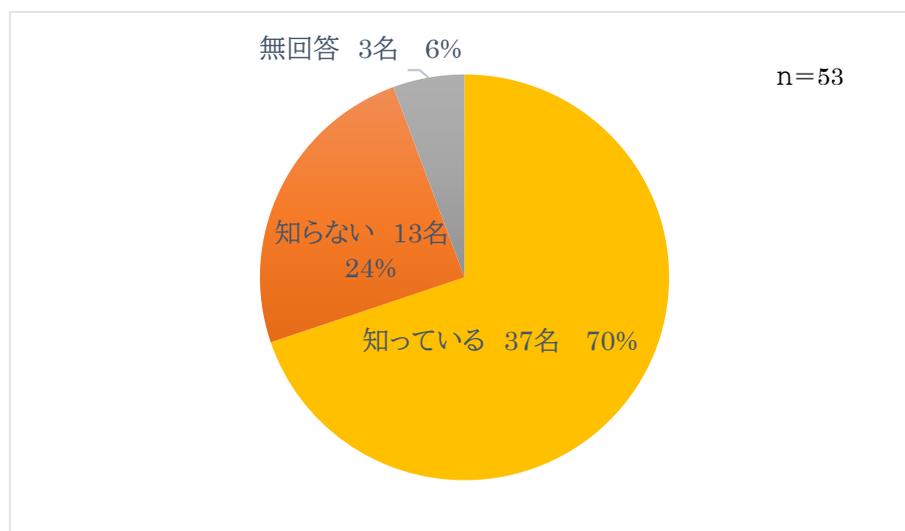
図14-2 協力医に登録していない理由(複数回答)



(8) 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」での検索

東京都が実施している東京都医療機関案内サービス「ひまわり」が障害者の歯科診療に対応できる医療機関を検索できることを知っていますかという問いに、「知っている」37名(70%)、「知らない」13名(24%)、無回答3名(6%)だった(図15)。

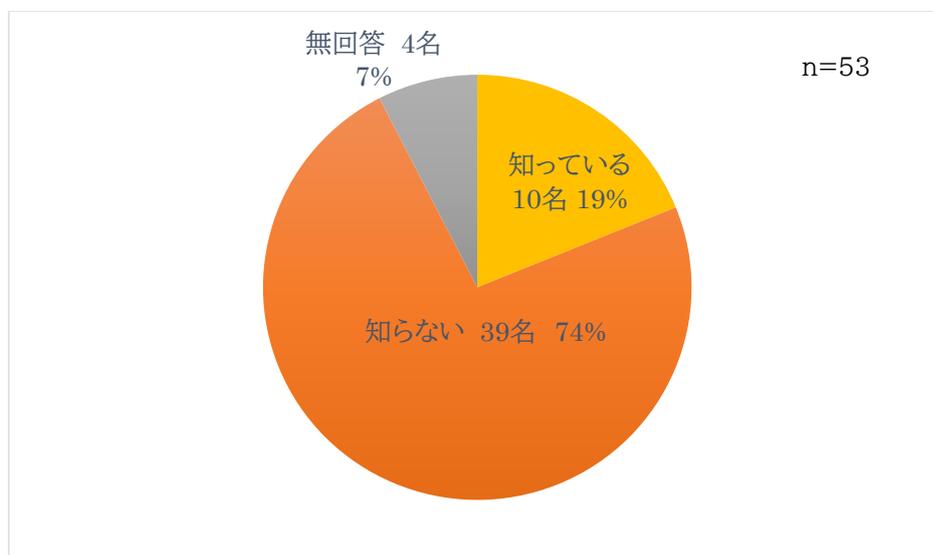
図15 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」で検索できることを知っているか



(9) 障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供の義務化

障害者差別解消法が改正され、合理的配慮の提供が2024年(令和6年)4月から義務化されることを知っていますかという問いに、「知っている」10名(19%)、「知らない」39名(74%)、無回答4名(7%)だった(図16)。

図16 障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供の義務化について知っているか



(10) 障害者歯科個別研修アドバンスコースに関する自由意見(一部掲載)

- アドバンスコース終了後に認定医等をとれるコースがあると助かります。
- 他の障害者歯科診療に携わっている先生と交流の場があると助かります。
- 諸事情により障害者診療から遠ざかっており今後、再協力の機会があるかもしれない、ブランク Dr のためのショートプログラム(フォロー)があると良いです。(1~2日位)
- ハードですが、理にかなった内容の充実した研修であると思います。
- 研修はとてわかりやすく障害者の基本的な部分を教えていただき現在の診療の基本となっています。
- アドバンスコースが終了後も研修が受けられるシステムがあればうれしいです。

3 考察及びまとめ

(1) 勤務形態と年齢区分

回答者の勤務形態「開設者」38名、「勤務医」15名で「開設者」が多かった。年齢区分においては、年代別の人数としては、「60代」19名(36%)が最も多く、次いで「50代」15名(28%)が多い結果となった。「令和2年医師・歯科医師・薬剤師調査」における年齢階級別では「50代」が最も多く22.5%、「60代」は18.5%であった。

(2) 障害者歯科診療の実施状況

① 個別研修会アドバンスコース受講前、受講後の障害者歯科診療の実施状況において研修受講前に比べ、受講後の方が実施している者が優位に多かった(P=0.002)。

② 障害者歯科診療の実施場所

「自院」36名、「地区口腔保健センター」23名だった。このことから、自院や地区口腔保健センターで障害者歯科診療を行っていくための研修内容の充実が必要と思われる。

(3) 患者の状況

① 最近1ヶ月の診療人数

障害者歯科診療を実施している歯科診療所の最近1ヶ月の診療人数は、「1人未満」が20%、「1人～2人未満」が6%、「2人～3人未満」が12%、「3人～10人未満」が32%で、70%が10人未満であるが、90人以上の歯科診療所も6%あった。1ヶ月の平均診療人数は11.7人であった。「平成30年障害者(児)歯科保健医療の実態調査」では91%が10人未満であり、研修修了者の方が診療人数は多い傾向だった。

② 最も多い年齢層

最も多い年齢層は「小児」17名(35%)、「成人」16名(33%)、「高齢者」7名(14%)、「どちらともいえない」9名(18%)であった。「小児」、「成人」がほぼ同様の構成比で、「高齢者」が低いのは東京都立心身障害者口腔保健センターと同様であった(東京都立心身障害者口腔保健センター令和5年度患者基本調査より)。

③ 来院患者で多い疾患

障害者歯科診療を実施している歯科診療所の来院患者のうち、疾患は知的能力障害が40名と最も多く、次いで自閉スペクトラム症(31名)、Down症候群(19名)、脳性麻痺(14名)と続いた。東京都立心身障害者口腔保健センターにおいても、知的能力障害、自閉スペクトラム症、Down症候群、脳性麻痺の順で同様であった(東京都立心身障害者口腔保健センター令和5年度患者基本調査より)。

障害者歯科診療を実施している歯科診療所には、知的な障害を伴う疾患の方が来院する傾向にあり、精神疾患、聴覚障害、視覚障害などの特別な対応に必要な少ない者は一般歯科にも受診されていると思われる。

(4) 診療内容

① どのような診療を行っている、もしくは行っていたか

障害者歯科診療の主な内容は、「う蝕治療」が最も多く40件、次いで「PMTTC」38件、「検診」36件、「口腔衛生指導」36件、「歯周基本治療」36件、「定期管理」28件、「フッ化物塗布」26件で治療と共に口腔健康管理が実施されていた。歯科衛生士が携わる診療内容も多いため、歯科衛生士に対する人材育成も最重要である。

② 治療困難時の対応

治療が困難な場合が「なし」と回答した28名(57%)であり半数以上で治療が困難ではなかった。治療が困難であった場合の対応としては、「他の歯科医療機関に紹介」が21名(78%)であり、紹介先としては、「東京都立心身障害者口腔保健センター」が最も多く、次いで「地区口腔保健センター」だった。当センターとしても医療連携を重視し研修を行っているため、その効果と考えられる。

③ 障害者歯科診療での配慮、実施していること

障害者歯科診療での配慮や対応は、「わかりやすい言葉がけ」が45名で最も多かった。「人による体動コントロール」32名、「診療時の保護者、介護者の付き添い」や「余裕をもった診療時間の確保」がともに28名で、安心、安全に配慮した診療を実施していることが窺える。

④ 障害者歯科診療を行う上で課題があるか、その内容

障害者歯科診療を行う上で課題があると43名(81%)が回答した。その内容に「自身のスキルアップ」があげられていた。自身のスキルアップに対しては、研修後の対応としてフォローアップ研修を行っている。スタッフ教育など更なるニーズに応えるために、障害者歯科の研修の実施に取り組む必要性がある。

⑤バリアフリーでの課題内容

バリアフリーでの課題の内容は、「トイレの設備」24名が最も多く、次いで「車いすの院内の使用」や「車いすの来院」であった。「筆談、手話」は、新たな設備を要さないため対処しやすいバリアフリー課題であった。

⑥設備、器材の不備について

最も多いのは「亜酸化窒素(笑気)吸入器」24名であったが、「ラバーダム」5名、「開口器」7名は、障害者歯科診療に特化した器材ではなく、日常の診療でも使用する器材であるため、すでに整備されている可能性が高いこと、また他の機器より安価であるため整備しやすい器材であった。

(5) 個別研修会アドバンスコースについて

①個別研修会アドバンスコースは障害者歯科診療を行う上で役に立ったか、役立った内容

「役に立たなかった」と回答した者はいなかった。「講義」45名(88.2%)、「相互実習」37名(72.5%)、「臨床実習」45名(88.2%)が役立ったとの回答だった。

②個別研修アドバンスコースの改善について

改善が必要と回答したのは7名で、改善内容は「臨床実習日数」4名、「研修期間」3名、「臨床実習内容」1名であった。「臨床実習内容」では見学の割合が多いとの意見があった。現在、個別研修会アドバンスコースは「研修期間」6日間のうち、「臨床実習日数」4日間であり、今後、これらの日数、内容について検討が必要と思われた。

(6) 協力医の登録について

①当センターの協力医に登録されているか

地域での障害者歯科診療の受け入れ先の拡充を目的として、障害者歯科個別研修アドバンスコースの修了した歯科医師に任意で協力医の登録を募っている。「協力医に登録している」39名(74%)、「協力医に登録していない」13名(24%)であった。

②協力医に登録していない理由

「自院で診るのは難しい」が最も多かった。「その他」の回答には「協力医の登録を知らなかった」、「年齢的に今、来院している患者のみ診療を行う」、「東京都以外で診療行っている」、「勤務医のためスタッフの協力がまだ得られない」、「登録する意思はある」、「車いすからユニットに移乗できない配置になっている」であった。「協力医の登録を知らなかった」の回答より、周知においては複数回必要であることがわかった。

(7) 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」での検索

東京都医療機関案内サービス「ひまわり」が障害者の歯科診療に対応できる医療機関を検索できることを「知らない」と13名(24%)が回答していた。個別研修アドバンスコースの「医療連携の進め方」の講義内容に追加が必要と思われる。

(8) 障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供の義務化

合理的配慮の提供が義務化されることを「知らない」と回答した者は39名(74%)で認知度は低い傾向にあると考えられた。障害者歯科診療を携わる当事者として情報の共有が必要である。

(9) まとめ

地域の歯科医療機関における障害者の受け入れ状況については最近1ヶ月の診療人数は全体の70%が、10人未満であり、年齢層は「小児」、「成人」がほぼ同様の構成比だった。来院患者で多い疾患は「知的能力障害」、「自閉スペクトラム症」、「Down症候群」、「脳性麻痺」の順で東京都立口腔保健センターと同様であった。治療が困難な場合が「なし」と半

数以上が回答した。治療が困難であった場合の対応としては、「他の歯科医療機関に紹介」が78%であり、紹介先としては、「東京都立心身障害者口腔保健センター」が最も多く、次いで「地区口腔保健センター」だった。個別研修会アドバンスコース受講前と受講後では障害者歯科診療実施に有意差が認められたことから、個別研修会アドバンスコースは障害者歯科診療に携わる歯科医師の人材育成に寄与していることが示された。研修内容について「役に立たなかった」と回答した者はなく、「講義」、「相互実習」、「臨床実習」は、障害者歯科診療の実施に役立っていたことが推察される。

地域における障害者歯科診療を普及するための研修課題としては、研修終了後も「自身のスキルアップ」のために繰り返し何らかの研修が必要と思われ、集団研修会を新しい知見の習得の場とし、また、臨床の手技については、個別対応による個別研修会フォローアップコースの参加を半年後、1年後に促していきたい。また、障害者歯科診療ではスタッフの協力が必須である。「スタッフ教育」については、個別研修会アドバンスコース終了した歯科医師から、自院のスタッフに当センターの診療見学や個別研修会参加への働きかけを推奨する。

障害者が身近な地域で安心して歯科診療を受けるには、障害者歯科に携わる歯科医療従事者の人材育成と、環境整備が必須要件である。当センターの個別研修会アドバンスコースの改善を図り、研修を終了した協力医の人材確保を行い、研修事業を通して障害者の歯科口腔保健の推進に取り組みたい。

障害児・者歯科人材育成の研修効果に関する実態調査アンケート

(1)現在の勤務形態について(○印は1つ)

1. 開設者
2. 勤務医
3. その他 ()

(2)現在の年齢

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳代 6. 70 歳以上
--

(3)個別研修アドバンスコース受講前に障害児・者の歯科診療を行っていましたか

1. はい
2. いいえ

(4)個別研修アドバンスコース終了後に障害児・者の歯科診療を行っていますか、もしくは行いましたか
(○印は1つ)

1. はい	→下記設問(5)～(17)をお答えください
2. いいえ	→下記設問(12)、(16)をお答えください

【(4)の設問で「1. はい」と回答した方は(5)～(17)の設問にお答えください】

(5)どこで診療を行っていますか、もしくは行いましたか(複数回答可)

1. 自院 2. 地区口腔保健センター 3. 障害者福祉施設 4. 在宅訪問
5. その他(具体的に:)

(6)最近1ヶ月の障害児・者診療人数

延べ 人

(7)最も多い年齢層(○印は1つ)

1. 小児 (17 歳以下) 2. 成人 (18～64 歳) 3. 高齢者(65 歳以上) 4. どれともいえない
--

(8)どのような障害のある方の診療を行っていますか、もしくは行いましたか(複数回答可、その場合上位3つまでお答えください)

1. 知的能力障害
2. 自閉スペクトラム症
3. Down 症候群
4. 脳性麻痺
5. 四肢機能障害
6. 臓器の機能障害
7. 視覚障害
8. 聴覚障害
9. 精神疾患
10. HIV/エイズ
11. その他()

(9)どのような診療を行っていますか、もしくは行いましたか(複数回答可)

1. 検診
2. 口腔衛生指導
3. PMTC
4. フッ化物塗布
5. シーラント
6. 歯周基本治療
7. う蝕治療
8. 補綴治療
9. 抜歯
10. 定期管理
11. その他(具体的に:)

(10)治療が必要になった際、出来ない場合がありますか(○印は1つ)

- | | | | |
|--------|---|---------------------|---|
| | | その時どうされましたか(複数回答可) | |
| 1. はい | } | 1. 応急処置(処置内容: |) |
| | | 2. 他の歯科医療機関に紹介(紹介先: |) |
| | | 3. その他(|) |
| 2. いいえ | | | |

(11)障害者歯科診療においてどのような対応を行っていますか、もしくは行っていましたか(複数回答可)

1. わかりやすい言葉がけ
2. 絵カードや写真、タブレットの活用
3. 開口器の使用
4. 人による体動コントロール
5. 体動コントロール器具(レストレイナー、ネット等)の使用
6. 余裕をもった診療時間の確保
7. 他の患者への配慮
8. 医療連携、緊急連携策に確保
9. 専用の診療時間帯の設定
10. 診療時の保護者、介護者の付き添い
11. 生体情報モニター管理下
12. 笑気吸入鎮静法
13. 静脈内鎮静法
14. 全身麻酔法
15. その他()

(12)自院で障害児・者の歯科診療を行う上での課題はありますか

1. はい→	}	どのような内容ですか(複数回答可)
		1. バリアフリーがなされていない
		2. 設備、器材の不備
		3. 人員不足
		4. 自身のスキル不足
	5. スタッフ教育	
2. いいえ		6. その他()

(12)の設問で「1. はい」と回答した方は(13)～(14)の設問にお答えください

(13) バリアフリーに関して課題になることはありますか (複数回答可)

1. 車いすでの来院	2. 車いすの院内使用	3. 駐車場	4. フロアの段差解消
5. 段差部のスロープ	6. トイレの整備	7. 通路の手すり	8. 筆談、手話
9. その他()			

(14) 設備、器材の不備はありますか

1. ラバーダム	2. 開口器	3. 酸素吸入器	4. 生体情報モニター
5. 亜酸化窒素(笑気)吸入鎮静器	6. 体動コントロール器具		
7. その他()			

(15)個別研修アドバンスコースは障害者歯科診療を行う上で役立ちましたか

1. はい→	}	どの内容ですか(複数回答可)
		1. 講義
		2. 相互実習
2. いいえ		3. 臨床実習

(16)個別研修アドバンスコースの改善が必要と思われますか

1. はい	→下記設問(17)～(18)をお答えください
2. いいえ	→下記設問(18)をお答えください

(17)改善が必要と思われる項目をお答えください(複数回答可)

1. 研修期間(6 日間)	2. 講義日数	3. 講義内容	4. 相互実習内容
5. 臨床実習日数	6. 臨床実習内容		
7. その他()

(18)当センターでは地域での障害者歯科診療の受け入れ先の拡充を目的として、障害者歯科個別研修アドバンスコースを修了された歯科医師の方々に任意で協力医になっていただいております。現在、当センターの協力医に登録されていますか

1. はい	→下記設問(20)～(21)をお答えください
2. いいえ	→下記設問(19)～(21)をお答えください

【(18)の設問で「2. いいえ」と回答した方は、(19)の設問にお答えください】

(19)登録されていない理由をお答えください(複数回答可)

1. 自院で診るのは難しい(理由:)
2. 他の歯科医療機関を紹介する	
3. その他()

(20)東京都が実施している東京都医療機関案内サービス「ひまわり」が障害者の歯科診療に対応できる医療機関を検索できることを知っていますか

1. はい
2. いいえ

(21)障害者差別解消法が改正され、合理的配慮の提供が 2024(令和 6 年)年 4 月から義務化されることを知っていますか

1. はい
2. いいえ

その他、障害者歯科個別研修アドバンスコースに関するご意見・ご要望などがございましたら
ご自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

資料：令和5年度 患者基本調査（一部抜粋）

(1) 年齢別疾患数

区分	6月期	12月期	計	1日平均	構成比
0～9歳	100	99	199	10.0	18.4
10～19歳	110	96	206	10.3	19.1
20～29歳	88	98	186	9.3	17.2
30～39歳	89	90	179	9.0	16.6
40～49歳	74	82	156	7.8	14.5
50～59歳	48	48	96	4.8	8.9
60～69歳	18	10	28	1.4	2.6
70歳以上	15	14	29	1.5	2.7
計	542	537	1,079	54.0	100.0

(2) 障害名別患者数

区分	6月期	12月期	計	1日平均	構成比
知的障害	165	174	339	17.0	31.4
自閉スペクトラム症	146	149	295	14.8	27.3
Down症候群	81	83	164	8.2	15.2
脳性麻痺	32	36	68	3.4	6.3
内部機能障害	0	5	5	0.3	0.5
四肢体幹機能障害	60	17	77	3.9	7.1
脳機能障害	5	8	13	0.7	1.2
認知症	0	0	0	0.0	0.0
パーキンソン	1	0	1	0.1	0.1
視覚障害	4	4	8	0.4	0.7
聴覚障害	10	7	17	0.9	1.6
精神障害	19	21	40	2.0	3.7
歯科恐怖症	0	1	1	0.1	0.1
その他	19	32	51	2.6	4.7
計	542	537	1,079	54.0	100.0